

25年度日本学士院賞受賞者決定

物性物理学の十倉氏に恩賜賞

日本学士院(久保正彰院長)は12日、平成25年度・日本学士院賞を十倉好紀・東大工学研究科教授ら9名に授与することを決定した。そのうち十倉教授と松浦純・東大人文社会系研究科教授には、恩賜賞が重ねて授与される。

い評価を得た。

◆十倉好紀(59) 東京大学大学院工学系研究科教授「強相関電子材料の物性研究」

【恩賜賞・日本学士院賞】
◆松浦純(63) 東京大学大学院人文社会系研究科教授「マルティン・ルター・エルフルト期注記集1509-1510/11」

院・エルフルト大学神学部講師期、1509-11年)現存全自筆資料(古代教父の著作、中世神学書等への行間・欄外注記、一部は自ら発見)の校訂・注解・解説により、ルター研究の基礎を築き直し、国際的に高

通常の物質では見られない性質を示す「強相関電子材料」という特殊な材料を見出し、量子物性科学を創成した。その開発原理は、基礎科学と産業応用への両面で多大な貢献をした。

理事長「中国文学理論の研究」
◆「文心雕龍」、『詩品』の二つの作品を軸として、中国の文学理論史について系統的に研究し、少なからぬ創見を提示した。特に多くの著作を比較して、その間の異同を見出す洞察にすぐれている。

に関する研究」
ニトロゲナーゼやヒドロゲナーゼなどの還元系金属酵素の活性中心に存在する複雑、かつ不安定な様々な遷移金属硫黄クラスターのモデル錯体を世界に先駆けて合成し、還元系金属酵素に凝縮された自然の巧みな仕組みを解明する端緒を拓いた。

即ち宇宙再電離の完了時期をビッグバンからおよそ8-9億年後と特定することになった。

◆中沢正隆(60) 東北大学電気通信研究所長・教授「エルビウム光ファイバ増幅器の実現とそれを用いた光通信の高度化に関する貢献」
半導体レーザー励起エルビウム添加光ファイバ増幅器を世界で初めて実現した。これにより、高性能広帯域の超多重光通信の中継が可能になり、長距離海底ケーブルを含むグローバルな光通信網が実用化され、情報通信インフラの発展に大きく貢献した。

◆佐藤英明(64) 東北大学大学院農学研究科教授「哺乳動物における卵子形成の制御機構に関する研究」
哺乳動物の卵子発育に係る3つの制御因子を発見し、特に血管網増殖誘起と卵子発育が密接に関わることとを明らかにした。また卵子成熟抑制因子を発見・分離し、卵成熟誘起の分子メカニズムを世界に先駆けて解明した。

◆鍋島陽一(66) 先端医療振興財団先端医療センター長「Kotofamily」の発見とその分子機能の解析を基盤とした生体恒常性維持機構の研究」
脂肪細胞から出るホルモン、アディポネクチンの抗糖尿病作用とその作用を伝えるアディポネクチン受容体を発見し、肥満に伴うアディポネクチン作用低下が2型糖尿病・メタボリックシンドロームの発症において主要な分子基盤であることを解明した。



松浦 純氏



十倉好紀氏



興膳 宏氏



巽 和行氏



家 正則氏



中沢正隆氏



佐藤英明氏



鍋島陽一氏



門脇 孝氏